

# 減災 NEWS



近畿大学奈良病院DMAT災害対策委員会

文責:加藤宏樹、山崎 賢太郎

Vol. 14 2024. 6. 18

みなさんこんにちは。今回の減災ニュースでは、2023年12月2日に近畿大学奈良病院で実施した災害対策訓練について報告させていただきます。

今回の訓練は、奈良県で震度6弱の地震が発生し、院内で火災が発生したという設定でした。当院は災害拠点病院という役割があるので実際の災害時には病院外からくる多数傷病者を受け入れる必要があるため定期的な災害訓練を実施する必要があります。今年度の訓練では火災という災害に対して災害拠点病院としての機能を維持しながら院内の患者の安全を守るための訓練を実施しました。

訓練には職員46名と生駒消防の職員2名が参加し、生駒消防の方には、火災についての講義と訓練の指導・助言をいただきました。

## 消防隊員からの講義

消防士さんの講義では、「燃焼」の要因や「消火」で大切なこと、当院の構造と避難の考え方についてわかりやすく教えていただきました。

近畿大学奈良病院は耐火構造であるため火災による建物の倒壊や延焼の防止に必要な性能が備わっています。



## 災害対策本部

災害発生時にはまず**自分の安全**確保を行って下さい。その次に病院としてまず最初に行うことは災害対策本部の立ち上げです。災害対策本部では院内外の災害の情報を集約し、病院としての方針を決定する役割があります。



災害時には様々な連絡手段が使用できなくなることが予想されます。そうした時にどこにどのようにして情報を集めるのかを職員が共通認識するためにも本部の立ち上げ訓練は定期的に実施しています。

## 避難・搬送

今回病棟の洗濯室から火災が発生し、その病棟の患者全員を一階下まで避難・搬送させる設定で行いました。

火災発生時のマニュアルを元に初期消火を行っています。



歩ける患者を避難させています。病院では「独歩」「護送」「担送」と患者の搬送手段を区分し、把握しています。

患者を避難させる時はどの患者を避難させたかわかるように記録しています。

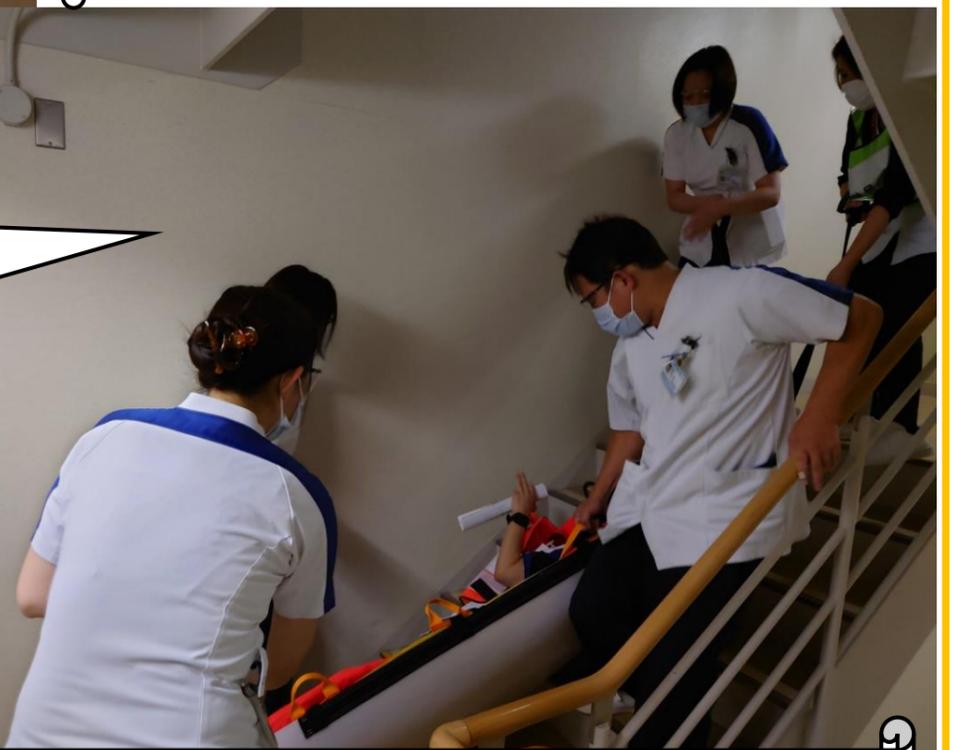


エアーストレッチャーとは、少人数で患者を安全に搬送するための道具です。

エアーストレッチャー

普段使う機会がないエアーストレッチャーを用いて患者搬送を実際に行いました。患者役になった人にも感想をお聞きしましたが、「怖さも痛さもなかった。」と言っていました。

こういった災害時にしか使用しない技術もあるため、これからも定期的に災害訓練を実施し、患者の安全が守れるような病院にしていきたいと思えます。



病院内の火災では火災場所によっては垂直避難だけでなく、水平避難を選択し、できる限り安全に避難できる方法を考えます。

ご意見やご感想、ご質問等ございましたら、【患者さまの声】にお願いします。  
(患者さまの声は、2階正面玄関前カウンター、再診受付機脇、各デイルームに設置しています。)